

出題分析			
試験時間	120分	配点	120点
		大問数	5題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、全問記述式である。</p> <p>極限の問題は出題されなかった。また、積分法の問題もほぼないといってもよい。</p> <p>図形に関する問題がやや多めである。</p> <p>論証が難しい問題が出題された。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[I]	複素数平面 (極形式、軌跡) 平面上の曲線 (楕円)	一つ一つの項目は典型的な手法で解決できるため、確実にこなしたい。 また、(3)の面積は実質、積分を用いなくてもよい。	やや易
[II]	微分法 (接線、最大値)	曲線の接線や、微分法による関数の増減という典型的な手法により、最大値を得ることができる。しかし、接線を考えればよいことを裏付ける論証は苦戦するだろう。	標準
[III]	場合の数 (完全順列) 数列(漸化式)	(1)は類題経験がなくても、地道に考えれば答を導ける。しかし、(2)はこのような考え方を知らないと、不可能に近い。一方、(3)は漸化式に関する学習を手広く行っていれば苦戦することはない。	標準
[IV]	空間ベクトル	(1)は半径の異なる4つの球面に関する設問である。重要なのは、球面の中心と、2つの球面による接点である。これらをきちんとイメージできれば、後はベクトルに関する計算問題である。 (2)は辺の長さがすべてわかっている四面体の体積についてである。解法は1通りではなく、座標空間に当てはめることもできる。	標準

[V]	微分法(接線) 有理数に関する論 証	細かい誘導が与えられているため解きやすいという考え方もできる。しかし、多数の文字が現れる煩雑さと、着眼点をどこにおくべきかを判断する難しさがあるため、無駄のない方法で解くのは容易ではない。 (1)、(2)はできるだけ計算量が少ない方法でこなしたい。 (3)は適切な解法に気づけば少しの記述で済むが、着眼点が難しいかもしれない。 (4)は(2)が解ければ比較的容易である。ただし、書き間違いには注意しなければならない。 (5)は、(4)までの流れを意識して、きちんと論証できるかが問われている。	やや難
-----	--------------------------	--	-----

合格のための学習法

標準的な難易度の問題が中心に出題される傾向がある。まずは、高校数学で扱う全範囲の典型問題を確実にこなす学力を身につけておく必要がある。特に、微分法・積分法、複素数平面、確率、図形問題が頻出であるため、これらについては過去問などを通して、幅広く学習しておこう。そして、この学部は全問記述式であるから、内容を整理することにより、できるだけわかりやすい記述ができるように、日頃から練習することを心がけよう。